

認知症の人との上手な接し方

認知症の人の気持ちを知ろう

「認知症の本人に自覚がない」は大きな間違いです。もの忘れによる失敗や、今までできていたことができなくなり何かおかしいと感じ、次のような思いを抱えています。

不安な気持ち

「自分に何が起きているのか」
「この先どうなるのか」

悔しい気持ち

「何でこれができないのか」
「みんなからバカにされる」

申し訳ない気持ち

「家族に迷惑をかけている」
「もっと役に立ちたい」

認知症の人との接し方ポイント

大切なご家族がもの忘れが多くなったり、認知症と診断されると様々なことに戸惑われ、感情的になったりすることもあるかと思います。しかし認知症の方は何もかもできなくなるわけではなく、できる機能を大切に工夫して接していけば自分でできることもずいぶん増えます。

良い接し方

- 本人の希望や意思、ペース、長年の習慣などを尊重しましょう
- ささいなことでも家庭や社会での役割を担ってもらおう
- できないことを責めるのではなく、できることを誉める
- 失敗を避けるためにやらせないのでなく、失敗しないように手助けをしましょう。
- なるべくポジティブな声かけをしましょう



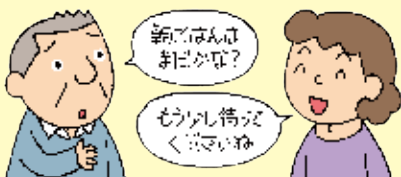
良くない接し方

- × 叱りつける
- × 命令する
- × 強制する
- × 子ども扱いする
- × 急がせる
- × 役割を取り上げる
- × 何もさせない



こんな時どうする？

食べたはずなのに「ごはん、まだ？」



「もう少し待ってください」などと伝え、植木の手入れなど別のことをしてもらって関心をほかにそらしましょう。ちょっとした間食を用意するのも満腹感を呼び覚ます一案です。「さっき食べました」と諭すのは逆効果です。

「同じことを何度も」話しかけてくる



「今日は何曜日？」などと同じ質問を何度もされたり、同じ内容の話を繰り返されたりしても、はじめてされたつもりで丁寧に應對しましょう。時間がないときは「あとでゆっくり聞かせて」と事情を話しましょう。

急に興奮して「攻撃的」になる



認知症の人は周囲が思う以上に日々ストレスがたまっており、ちょっとしたきっかけでイライラが爆発します。「バカにされた」「無視された」など怒りの理由をたずね、こちらに非があれば謝って信頼関係を保ちましょう。

「物盗られ妄想」への対応

否定してもかたくなになられるだけです。

- まずは一緒に探し、本人が見つけられるように促してみよう。
- 探している間に別の話題へ切り替えていくのも有効です。
- 対応しても落ち着かない場合は一緒に散歩に出かけたり、ドライブへ連れ出すなど気分転換を図ってみよう。